

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療の質向上のための体制整備事業(厚生労働省補助事業)

第8回 運営委員会 (医療の質向上のための協議会)

2021年11月11日(木)10:00 ～ 12:00
公益財団法人日本医療機能評価機構 オンライン会議

委員出欠状況(50音順)

委員名(敬称略)	所属	役職	出欠	備考
1 石川 直子	独立行政法人地域医療機能推進機構	理事	出	
2 岡田 千春	独立行政法人国立病院機構	審議役	出	
3 草場 鉄周	医療法人北海道家庭医療学センター	理事長	出	
4 楠岡 英雄	独立行政法人国立病院機構	理事長	出	委員長
5 桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社	代表取締役社長	出	
6 佐藤 朗	独立行政法人労働者健康安全機構	理事	出	
7 進藤 晃	公益社団法人 全日本病院協会	東京都支部長	出	
8 西尾 俊治	一般社団法人 日本慢性期医療協会	常任理事	出	
9 橋本 省	公益社団法人日本医師会	常任理事	(委任状)	
10 原 義人	公益社団法人全国自治体病院協議会	副会長	出	委員長代理
11 福井 次矢	一般社団法人日本病院会	QI委員会 委員長	出	
12 松原 了	社会福祉法人恩賜財団済生会	理事	出	
13 松原 為人	全日本民主医療機関連合会	理事	出	
14 矢野 真	日本赤十字社 医療事業推進本部	総括副本部長	出	
15 吉川 久美子	公益社団法人 日本看護協会	常任理事	出	
16 永井 庸次	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院	前院長	欠	ア〃バ イザ-
17 堀田 聰子	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	欠	ア〃バ イザ-
18 宮田 裕章	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	欠	ア〃バ イザ-
19 渡辺 昇	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	出	ア〃バ イザ-

関係者出欠状況

QI活用支援部会／QI標準化部会(敬称略)

20	尾藤 誠司	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター臨床研修科	医長	出	部会長
21	的場 匡亮	昭和大学大学院 保健医療学研究科	准教授	出	部会長

厚生労働省医政局総務課(敬称略)

22	北原 加奈子	保健医療技術調整官		欠	
23	真中 章弘	課長補佐		出	
24	三山 江穂	課長補佐		出	

公益財団法人日本医療機能評価機構

25	上田 茂	専務理事		出	
26	橋本 迪生	常務理事		出	
27	横田 章	常務理事兼事務局長		出	
28	亀田 俊忠	理事		出	
29	高島 昇	事務局次長		出	
30	菅原 浩幸	統括調整役		出	
31	神保 勝也	評価事業推進部 副部長		出	
32	實川 博己	評価事業推進部企画課 課長代理		出	
33	中田 祐太	評価事業推進部企画課 主任		出	
34	浅野 由莉	評価事業推進部		出	

議事次第

1. モデル事業(パイロット)の実施状況について
2. 各部会の検討状況について
(①事例収集の検討, ②医療の質指標開発・保守ガイド(仮称)の検討)
3. 医療の質指標等の標準化・公表のあり方について(継続検討)
4. その他

1. モデル事業(パイロット)の実施状況について (中間報告会開催報告)

進捗状況

#	活動内容	内容	日程
1	チーム編成	各テーマに応じた体制構築	1月～2月
2	説明会への参加 (医療の質向上のためのコンソーシアム)	パイロットの概要説明	2/13
3	事前課題	各テーマごとに定められた計5つの指標(パイロット適用指標)を手順書をもとに計測 計測対象期間：2020年7月～12月(6か月分)	2/18～4/30
4	事前アンケートの記載	事務局より別途送付するアンケートに回答	2/18～3/5
5	e-learningの受講	質指標を活用した質改善活動に必要な知識を習得するための動画(計4本, 120分程度)を参加者全員が視聴	2/18 ～キックオフセミナー開始日
6	キックオフセミナー受講	各テーマ(糖尿病, 脳卒中(脳梗塞), THA・BHA)ごとに開催する計2日間(実質1日)のセミナーに参加	5/14～6/18
7	改善活動のモニタリング	キックオフセミナーで作成したワークシートをもとに改善の取組を実施し、定期的な指標の計測(8, 11, 2月)	キックオフセミナー終了 ～2022年3月31日
8	中間報告会の参加	パイロットに参加する病院のこれまでの取組を共有し、課題や創意工夫等を共有	脳卒中(脳梗塞)(10/22) 糖尿病(11/5) THA・BHA(11/12)
9	最終報告会の参加	パイロットに参加する病院の1年間の取組、実績を共有し、課題や創意工夫等を共有	調整中
10	フォローアップ	パイロットに参加した病院の近況報告(院内全体へ展開等)を最終報告会から約半年後に開催	調整中

パイロット協力病院一覧(全23病院)

()は推薦団体, 順不同

#	脳卒中(脳梗塞)	糖尿病	人工股関節全置換術(THA)又は 人工骨頭置換術(BHA)
1	山形市立病院済生館(全自病)	平成横浜病院(日慢協)	西宮回生病院(日慢協)
2	社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院(全日病)	公立昭和病院(全自病)	川口市立医療センター(全自病)
3	済生会今治病院(済生会)	公益財団法人東京都医療保健 協会 練馬総合病院(全日病)	山形済生病院(済生会)
4	汐田総合病院(民医連)	済生会松山病院(済生会)	京都民医連中央病院(民医連)
5	京都医療センター(国病機構)	福井県済生会病院(済生会)	地域医療機能推進機構 大阪病院(JCHO)
6	名古屋第二赤十字病院(日赤)	勤医協中央病院(民医連)	横浜労災病院(労安機構)
7	公益財団法人大原記念倉敷中 央医療機構 倉敷中央病院 (日病)	地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター (JCHO)	静岡赤十字病院(日赤)
8		中部労災病院(労安機構)	社会医療法人行岡医学研究会 行岡病院(日病)

中間報告会

中間報告会は、①キックオフセミナー時に策定した改善計画に対する現状の活動報告及び活動中に生じた課題の解決を図ること、②改善活動におけるモチベーションの維持・向上を主たる目的に実施する。

			脳卒中 (脳梗塞)	糖尿病	THA・BHA
時間		内容	10/22(終了)	11/5(終了)	11/12(予定)
13:00～13:05	5分	事務局挨拶、趣旨説明	事務局		
13:05～14:10	65分	セッション① 協力病院による進捗報告	尾藤 部会長 猪飼 部会員	尾藤 部会長 荒井 部会員	荒井 部会員 猪飼 部会員
14:10～14:15	5分	休憩			
14:15～14:55	40分	セッション② ディスカッション			
14:55～15:00	5分	事務連絡	事務局		

任意参加

15:00～15:30	30分	有志による病院間の交流
-------------	-----	-------------

参加病院の現状と課題(速報)

本日現在、脳卒中(脳梗塞)、糖尿病をテーマとした中間報告会を終えている。中間報告会で明らかとなった参加病院の現状と課題は、以下のとおりである。

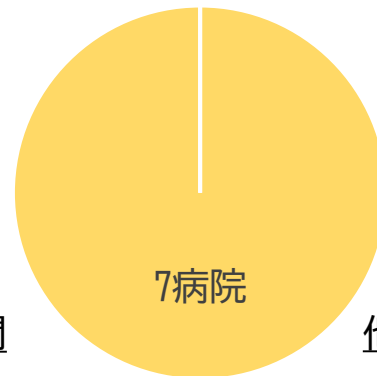
テーマ	参加 病院数	進捗状況				主な課題	主な要望		その他
		順調	概ね順調	やや不順	不順				
脳卒中 (脳梗塞)	7病院	2	5			● 改善活動の周知が院内全体にされていないため、該当チーム以外の協力が得られにくい。 ● データ登録の誤りや算定漏れが発見された。 ● 担当部署(経営企画)からデータを提供されたが、知識が乏しく、データが示す意味を理解できず対応に苦労した。	管理者層 ● <u>Q I の活用を各部署へ働きかけて欲しい。</u> ● <u>質改善の部署を設立して欲しい。</u> ● <u>協力体制を強化して欲しい。</u> ● <u>時間外活動を業務として認めて欲しい(定例会議の開催)。</u>	協力団体・評価機構(JQ) ● <u>データ集計を一元化して欲しい。</u> ● <u>全国のデータを簡単に見れるようにして欲しい。</u> ● 院内共有に必要なアイディア、資材等を紹介して欲しい。 ● 積極的に取り組んでいる医療機関に対して、<u>経済的なインセンティブを考慮してもらえよう、国に働きかけて欲しい。</u> ● <u>団体ネットワークを活用した改善の取組や事例を共有して欲しい。</u>	● 病院間の構造的な因子(病院規模や人員構成、ITの充実度など)に乖離があるため、他院の事例をそのまま活用するのは難しいと理解した。 ● 指標の数値だけでなく、構造的な因子の違いや背景の違いが指標に与える影響について、議論を深めても良いと感じた。

続き)

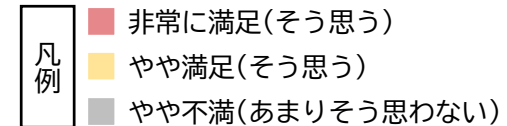
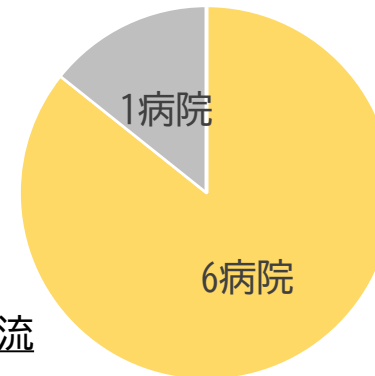
テーマ	参加 病院数	進捗状況				主な課題	主な要望	その他
		順調	概ね順調	やや不順	不順			
糖尿病	8病院	現在集計中				● 人員不足により、業務内で時間を確保することが困難である。 ● チーム職種の一部のみの活動になっている。 ● 職種をまたいで勉強会などの機会を設けることがなかなかできない。 ● 特定のスタッフへの負担が増えている。 ● データ抽出作業が大変である。	現在集計中	

事後アンケートの結果(脳卒中(脳梗塞):7病院)

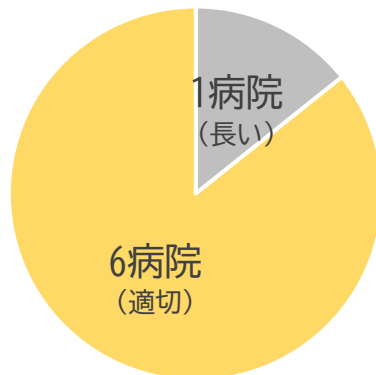
セッション①の満足度



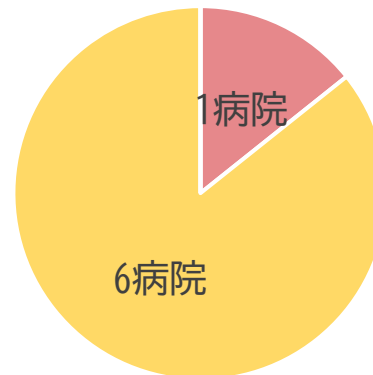
セッション②の満足度



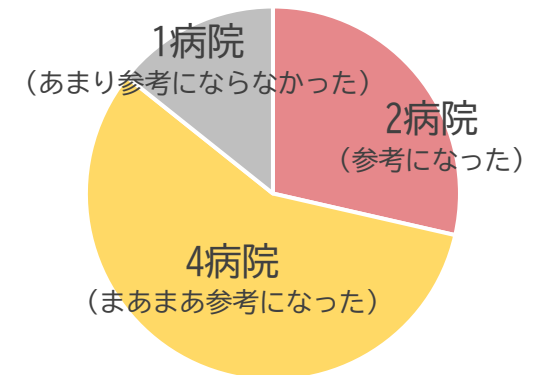
報告会の時間



他病院との交流



参考度



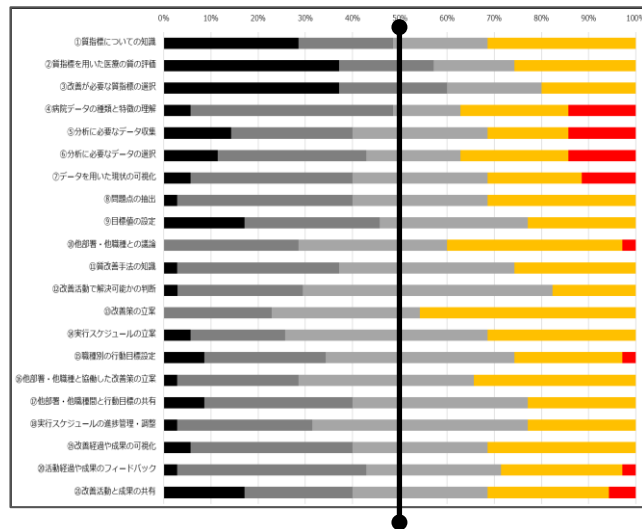
参加者の声(印象に残ったこと)

- 同一テーマの他院の取組を知ることができてよかった。
- チーム一丸となって取り組まれている病院が羨ましかった。
- どの病院も計画どおり進捗しており成果が出ていた。
- 参加病院間による交流を活性化させて欲しい。

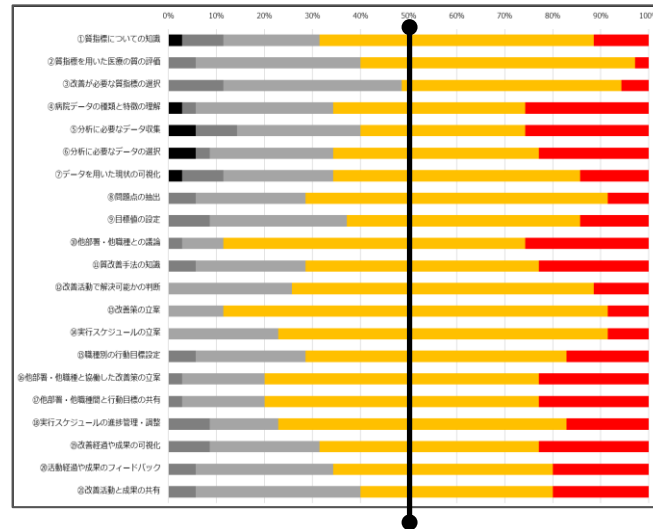
自己評価の結果(脳卒中(脳梗塞):7病院)

セミナー受講後(5月14日, 28日開催)は、受講前と比較し多くの要素(コンピテンシー)で評価が向上した(**ができる)が、中間報告会参加後(10月22日開催)は、多くの要素で評価が著しく低下した。

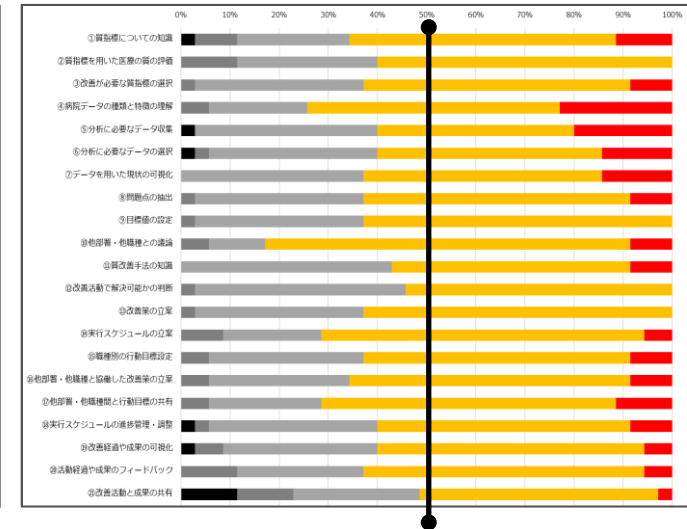
セミナー受講前
(35名, 7病院)



セミナー受講後
(35名, 7病院)



中間報告会参加後
(35名, 7病院)



■ 全く当てはまらない ■ あまり当てはまらない ■ どちらともいえない ■ やや当てはまる ■ 非常に当てはまる

*本結果は、キックオフセミナー受講前・受講後・中間報告会時点の3つの評価時期で比較可能な方のみを集計している(11/5時点)。

質改善活動を実践できる人材(チーム)のコンピテンシー

質改善プロセス	求められる能力(コンピテンシー)	構成要素(成果)
① 医療の質の評価	医療の質指標の知識	①質指標についての知識がある
	医療の質指標活用能力	②質指標を用いた医療の質の評価ができる ③医療の質の改善に必要な質指標を選択できる
		④病院データの種類とその特徴を理解している
② 現状分析と問題 点の整理	データ収集能力	⑤分析に必要なデータを適切に収集できる
	データ分析能力	⑥分析に必要なデータを適切に選択できる ⑦データを用いて現状を可視化できる
	データ読み取り能力	⑧分析結果から問題点を抽出できる
		⑨目標値の設定ができる
	コミュニケーション能力	⑩分析結果に基づいて他部署・他職種で問題点を議論ができる
③ 改善策立案と 実行計画	質改善活動の知識	⑪質改善手法についての知識がある
	質改善活動のマネジメント能力	⑫抽出した問題点が改善活動で解決可能か判断できる ⑬解決可能な問題点に対して改善策が立案できる ⑭改善策の実行スケジュールを立てることができる ⑮職種別の具体的な行動目標を立てることができる
	コミュニケーション能力	⑯他部署・他職種が協働して改善策が立案できる ⑰他部署・他職種間でお互いの行動目標を共有できている
		⑱改善策の実行スケジュールの進捗管理・調整ができる
		⑲改善経過や成果を可視化できる
④ 改善活動の評価	改善活動のモニタリング能力	⑳臨床現場へ活動経過や成果を適切にフィードバックできる
	プレゼンテーション能力	㉑改善活動と成果を病院全体で共有している

2. 各部会の検討状況について (①事例収集の検討)

事例収集の検討について

- 未だ質指標を活用した改善活動に参加していない医療機関に対し、質を測る意義等を理解いただくためには、好事例を収集し共有することが重要であると本会において提起された。
- そこで、事例の共有については、好事例の収集を基本としつつも、医療機関の関心事を念頭に入れた対応を検討することとなった。
- 現在、Q I 活用支援部会において検討を進めており、12月中旬を目途に各協力団体様に事例の提供についてご相談をする予定である。

■ 収集事例のテーマ(案)

以下のうち、活動状況が指標(分母・分子)で計測される事例

- a. 医療安全に関する事例
- b. 患者の意見が取り入れられた事例
- c. 多職種チームで改善が進められた事例

■ 収集方法(案)

- a. 各協力団体様からのご紹介
- b. 関係者(部会員等)からのご紹介(すでにTQM活動に取り組んでいる病院等)
- c. 病院機能評価の認定病院

2. 各部会の検討状況について

(②医療の質指標開発・保守ガイド(仮称)の検討)

医療の質開発・保守ガイド(仮称)の概要

本会の意見を踏まえ、Q I 標準化部会にて医療の質開発・保守ガイド(以下、ガイド)の骨子を検討し委員長へご報告のうえ現在、部会員にて執筆作業を進めている。

趣旨・目的	○ 医療の質指標(以下、質指標)の計測意義・目的、取扱等について、本事業における考えを明文化する。 ○ 主な読者とする医療関係者の質指標に対する理解を深め、質指標の活用が普及・促進されることを目的とする。
対象	全国の医療関係団体・医療機関等
主な内容	○ 質指標に関する全体像を概観し、共通の理解が得られるよう基本的な事項を解説する。 ○ これまでの部会での取組及び協議会における議論、国内外の事例等を参考に、既存の情報を整理・提示、解説することを主眼とする。
読者の到達目標	医療の質指標の意義や特性を理解し、適切な質指標の設定・計測等について考えを述べることができる。

目次(案)

第1章 医療の質向上のための体制整備 事業について	1.1 QIの歴史的な経緯 1.2 事業概要 1.3 事業実施体制 1.4 本ガイドの位置づけ
第2章 医療の質指標の基礎知識	2.1 医療の概念枠組み 2.1.1 OECDフレームワーク 2.2 「医療の質」の捉え方 2.2.1 医療の質とは / 2.2.2 医療の質を評価する枠組み 2.3 医療の質指標の役割 2.3.1 医療の質指標とは / 2.3.2 医療の質指標の例 2.3.3 医療の質指標の意義・役割 / 2.3.4 医療の質指標の利用目的 2.3.5 医療の質指標のタイプ / 2.3.6 医療の質指標の留意点 2.4 医療の質指標の構造 2.4.1 医療の質指標の仕様
第3章 医療の質指標の望ましい要件	3.1 望ましい「医療の質指標」とは 3.1.1 医療の質指標の望ましい要件 / 3.1.2 質改善に資する医療の質指標の要件 3.2 例示指標
第4章 医療機関における医療の質指標の 運用サイクル（設定・保守）	4.1 医療の質指標の設定 4.2 運用ルールの設定と計測の実施 4.3 指標の見直し（改廃）
Appendix	● 協力団体が運用する医療の質指標（リンク） ● 参考文献

主な記載内容

章	概要	項	記載内容
第1章 医療の質向上のための体制整備事業について	事業概要およびガイドの作成目的等を説明する。	1.1 QIの歴史的な経緯	—
		1.2 事業概要	事業目的、事業内容
		1.3 事業実施体制	協議会の構成メンバー及び部会の設置、Q I コンソーシアム等の組織体制を説明する。
		1.4 本ガイドの位置づけ	本事業でのガイド作成の背景及び目的, 対象, 活用の狙い等を説明する。
第2章 医療の質指標の基礎知識	本ガイドの主題である「医療の質指標の基本的な考え方」を解説するにあたり、まず医療システムのフレームワークという広い視点から全体像を示す。次にその中核的な要素である「医療の質」や枠組みを解説する。さらに医療の質を具体化する手段として「医療の質指標」を説明する。	2.1 医療の概念枠組み	当事業では、医療システム全体をフレームワークとして捉えており、その中の中核的な要素として、「医療の質」を位置づけている。そこで、まず全体像としてフレームワークを解説する。
		2.2 医療の質の捉え方	医療システムの中核要素である「医療の質」を説明する。多く引用されているIOMの定義や、医療の質にアプローチするための枠組み等、基礎的な内容を伝える。
		2.3 医療の質指標の役割	本ガイドの主題である「医療の質指標」にフォーカスし、様々な特徴や留意点などを解説する。
		2.4 医療の質指標の構造	医療の質指標が何を測定しているのか、指標定義や計測手順を明確にする必要がある。そこで、指標を構成する要素、仕様について解説する。

続き)

章	概要	項	記載内容
第3章 医療の質指標の 望ましい要件	数多くの質指標が提案されているが、もし適切に設定されていない指標があった場合、医療の質向上には寄与しない可能性がある。そこで、理想的な指標にはどのような特徴があるかを説明する。	3.1 望ましい「医療の質指標」とは	医療の質指標の望ましい要件については、海外ではいくつかの基準が提案されている。そこで海外事例を紹介し、わが国では医療環境や使用目的が違うので、わが国の環境を踏まえた基準（部会で取りまとめた選定基準）を説明する。
		3.2 例示指標	本ガイドに準拠した指標セット（例示指標）を紹介する。例示指標は選定基準を満たしているので、利用にあたって関係者の納得が得られやすいと考えられることを説明する。
第4章 各施設における 医療の質指標の 運用サイクル （設定・保守）	質改善のために院内で質指標を運用する場合の、一般的な流れを解説する。	4.1 医療の質指標の設定	質指標を用いる場合、新規に質指標を開発する方法と、目的にかなった既存指標を利用する方法がある。ここでは既存の指標から目的にあった指標を選び利用する場合を解説する。候補となる指標を検索し、分子・分母、計測手順などを確認し、自院の目的にかなっているかどうかを十分に検討のうえ設定する必要があることを解説する。
		4.2 運用ルールの設定と計測の実施	当該指標の計測手順書を参考に、計測の運用の詳細（担当者、計測頻度、結果の提出先等）を定めておくことが必要となる。可能であれば、情報システムにより、自動的にデータを取得できるようになると望ましい。
		4.3 指標の見直し（改廃）	運用期間中の見直し：使用するマスターが随時更新されるので、最新版のマスターを使用する。 数年ごとの見直し：当該指標の計測をこのまま継続するか、新たな指標を設定するかなど、定期的に見直す。

今後について

- 原案の完成は、11月末を予定している。
- その後、本会委員の皆様方にレビューをいただいた後、最終的には3月末までに初版の完成を予定する。
- なお、レビューは12月中旬から1月末までを計画している。

詳細は後日、各協力団体事務局様を通じてご案内、ご相談する予定である。

3. 医療の質指標等の標準化・公表のあり方 について（継続検討）

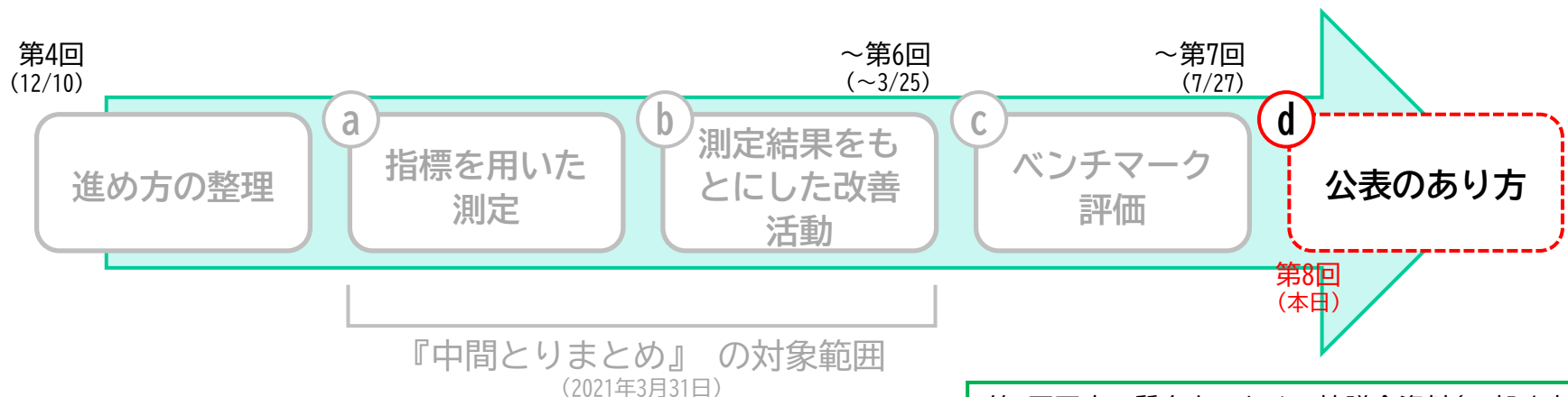
医療の質指標等を活用した質改善活動の普及・促進に関する検討

(医療の質指標等の標準化・公表のあり方に関する検討の流れ)

- 先行事業*)では、質指標の自院における経年変化及び他院との比較を可能とするためには、質指標の要件を標準化すべきではないかと問題提起がされている。
- 一方、標準化と称して質指標の固定化を行うことは、各医療機関等のこれまでの努力に影響を及ぼす、質指標それ自体が質を表すものとはなり得ないなど、質指標の標準化については多様な意見がある。
- 以上より、慎重かつ丁寧な議論とするため、進め方の整理から議論を開始した。
- 議論は、4つの論点(a)指標を用いた測定, b)測定結果をもとにした改善活動, c)ベンチマーク評価, d)公表のあり方)を順に行うこととした。

*先行事業とは、厚労省が2010年度から18年度まで実施した「医療の質の評価・公表等推進事業」。9団体、約1,000病院が参加した。

「医療の質指標等の標準化・公表のあり方」に関する検討の流れ



これまでの検討結果

質指標を活用した改善活動に参加していない医療機関を主な対象に、質指標の基本的な考えを示したガイドの作成、基本的な改善活動の進め方を整備(PDCA事業の実施)するなどとした。

開催回	分類	項目	検討結果
第4~6回 (12/10~ 3/25)	医療の質指標等を活用した質改善活動の普及・促進に関する中間とりまとめ	医療の質向上のための具体的な取組の共有・普及のあり方	主に質指標を活用した改善活動に参加していない医療機関を対象に展開。 ● 質指標を活用した質改善マニュアルの周知 ● PDCA事業の企画、運営 ● 管理者、実務者を対象とした研修事業の企画、運営 ● 改善事例等の情報共有
		医療の質指標等の標準化・公表のあり方	● 質指標の意義・目的, 対象, 要件など、基本的な考えを示した「医療の質開発保守・ガイド(仮称)」を作成 ● 質指標を活用した基本的な改善活動の進め方を整備(PDCA事業の企画、運営)
第7回 (7/27)	医療の質指標等の標準化・公表のあり方(ベンチマーク評価)	ベンチマーク評価の目的	自主的な質改善活動の更なる充実のために、 ● 自施設の位置づけを把握する(≒改善に向けたモチベーションを高めること)。 ● 高いパフォーマンスを発揮する他施設の取組を知る契機とする。 ● 組織における質のガバナンス及び管理者のリーダーシップを強化する(≒質向上に向けた組織の管理運営を強化する)。
		ベンチマーク評価の本事業における取扱	● 全国の医療機関が自施設の位置づけを把握できるよう、可能な限り測定方法は共通化する(質指標の狙い, 分母・分子・除外要件等, 使用するマスターデータなど)。 ● 現在検討するガイドをもとに、ガイドに準拠した指標を当事業の例示指標(モデル指標)として策定し、広く全国の医療機関に提供する。 ● また、今後は施策であるPDCA事業において例示指標を活用し、事業の一環としてベンチマーク評価を実施する。 ● なお、ベンチマーク評価は自主的な質改善活動のための方策であり、病院間の比較・ランク付けではないことに留意する。

ご確認事項(前回(7/27開催)のまとめ:ベンチマーク評価)

前回ベンチマーク評価の目的及び取扱いについて了承いただいた。一部文言修正を指摘いただき、以下のとおり変更をしたので確認いただきたい(朱書部分)。

ベンチマーク評価の目的

自主的な質改善活動の更なる充実のために、

- 自施設の位置づけを把握する(≡改善に向けたモチベーションを高めること)。
- 高いパフォーマンスを発揮する他施設の取組を知る契機とする。
- 質向上に向けた組織のガバナンス及び管理者のリーダーシップを強化する。

※修正前：組織の質に関するガバナンス及び管理者のリーダーシップを強化する。

ベンチマーク評価の本事業における取扱い

- 全国の医療機関が自施設の位置づけを把握できるよう、可能な限り測定方法は共通化する(質指標の狙い, 分母・分子・除外要件等, 使用するマスターデータなど)。
- 現在検討するガイドをもとに、ガイドに準拠した指標を当事業の例示指標(モデル指標)として策定し、広く全国の医療機関に提供する。
- また、今後は施策であるP D C A事業において例示指標を活用し、事業の一環としてベンチマーク評価を実施する。
- なお、ベンチマーク評価は自主的な質改善活動のための方策であり、病院間の比較・ランク付けではないことに留意する。

厚生労働科学研究 研究班の報告について

『医療の質指標に関する国内外レビュー及びより効果的な取組に関する研究(平成28年度)』

『医療情報の適切な評価・提供及び公表等の推進に関する研究(平成29年度)』

研究代表者 福井 次矢 先生

医療の質指標等の公表のあり方について

厚生労働省医政局総務課

公表に関するこれまでの主なご意見

留意すべき点

- 数値結果だけでなく、プロセスも一緒に公表することが必要である。
- 拙速な方法で公開することにより医療提供体制が混乱することのないようにすべきである。
- 疾患に関する指標の公表に際しては、重症度の違いなど、対象患者の相違を明確にし、横の比較には意味がないことを周知する必要がある。
- 測定値を公表する場合は、測定の目的や前提となる条件を十分に国民に対して説明し、純粋に医療の質を測定可能な指標の選定を行うべきと考える。
- 国民すべてを対象に平易で分かりやすい指標が必要であると考ええる。
- 医療関係者が真摯に改善に取り組んだとしても、偏った公表となる可能性は認識すべきかもしれないと考える。

その他

- 医療機関ごとにどのような指標を可視化していくかという合意ができていないので、拙速に公表すること本末転倒である。
- 最終目標は質を上げるということである。どのような活動をし、何を公表するのかということが最終目標ではない。
- 医療の質指標を見て医療機関を選択するということとはあり得ない。
- プロセスが非常に重要であり、結果が問題なのではない。
- 病院及び治療の選択は総合的に判断されるものである。公表の目的を丁寧に議論する必要がある。
- 公開して患者が知ること、改善のスピードを速めることが可能なのではないか。
- 経時的に個々の病院の状況や病院の努力が反映される公表のあり方が必要ではないか。

本日の検討事項

これまでの検討結果、福井先生及び厚労省からご発表いただいた内容をもとに、以下についてご検討いただきたい。

【論点】

本事業の目的(a. 現場の自主的な質改善活動を充実させる, b. 医療の質を可視化し信頼性を向上させる)に照らし、本事業で検討を予定するP D C A 事業(ベンチマーク評価)の公表のあり方について、留意すべき事項等をご検討いただきたい。

なお、検討結果は公表のあり方における協議会の考えとして取りまとめるほか、現在検討する「医療の質指標開発・保守ガイド(仮称)」及びP D C A 事業の詳細化に参考とする予定である。

4. その他

今後の予定について

		年度	2021(令和3年)				
		月	11	12	1	2	3
Q I コンソーシアム			Q I コンソーシアムの企画・準備			第3回(未定)	最終報告会
医療の質向上のための協議会		第8回(本日)			第9回(未定)		第10回(未定)
		医療の質指標等の標準化・公表のあり方について検討					
		パイロットの実施(23病院)					
部会	Q I 活用支援	中間報告会実施 (脳卒中:10/22, 糖尿病:11/5, THA:11/12)	パイロット最終報告会の企画・準備				
		・医療の質指標を活用した質改善に適用できる各種ツールの検討 ・取組事例の収集・整理、公開に向けた準備					
		・パイロットの各種プログラム検証・修正(総括報告書の作成) ・P D C A 事業実施に向けた準備					
	Q I 標準化	医療の質指標開発・保守ガイドの作成	医療の質指標開発・保守ガイドの査読(運営委員会)			医療の質指標開発・保守ガイド(初版)の最終化	
			医療の質指標開発・保守ガイドのパブコメ			パイロット適用指標検証	

ご相談・ご案内事項

1. 医療の質指標を活用した改善事例のご提供について

- 改善事例の情報共有は、未だ取組を始めていない医療機関に対し、質を測る意義等を理解いただくための最初のアプローチとして極めて大事であるのご指摘いただき、現在、Q I 活用支援部会にて具体的な収集, 整理, 共有内容等について検討している。
- そこで、各協力団体様のご協力のもとご所属される会員病院様の質指標を活用した改善事例をご提供いただき、オフィシャルサイト上でご紹介させていただきたい。

2. 質指標の実績値及び最新定義のご提供について

- 当事業では、各協力団体様からご提供いただいた指標群をオフィシャルサイト上で検索、閲覧することを可能としている。そこで、昨年度ご提供いただいた指標群の公表する実績値についてご提供いただきたい。
- また、質指標の最新定義（2021年度版）についてもご提供いただきたい。

3. 医療の質向上のためのコンソーシアム開催について

医療の質向上に積極的に取り組み、事例や経験の共有などを目的としたコンソーシアムの開催を現在、2月頃を目途として調整を進めている。なお、モデル事業(パイロット)で実施を予定する最終報告会は、別日程で開催(公開)を検討中である。

詳細は後日、各協力団体事務局様を通じてご案内、ご相談する予定である。